



「単元」と「題材」ってどう違うの？ ②

さて、前回の通信で「単元と」「題材」の定義について紹介しました。

【単元】学習内容の有機的なまとまりを示すものであり、学習に順序性があり、計画から実際の学習の展開、まとめを一連の活動として設定しているもの。

【題材】教科における系統性等を背景にもった学習活動の材料を示すもので、教材の一部であり、学習活動の最低限のまとまりとして設定しているもの。

例えば、次の二つの学習について、その使い分けを考えてみましょう。

〈生活単元学習の場合〉「〇〇ランドであそぼう」（全 3 4 時間）

- | | | | |
|--------------|------|----------------|--------|
| (1) 段ボールで遊ぶ | 2 時間 | (2) 遊び場作りを話し合う | 2 時間 |
| (3) 段ボールを集める | 3 時間 | (4) 迷路トンネルを作る | 8 時間 |
| (5) 色を塗る | 5 時間 | (6) 迷路トンネルで遊ぶ | 1 0 時間 |
| (7) 思い出を絵に描く | 2 時間 | (8) 片づけをする | 2 時間 |

ここでの学習は、「導入－計画－準備－実践－まとめ」といった一連の活動が、有機的なひとまとまりになり、「〇〇ランド」という大きなテーマのもと、子どもたちがつながりのある学習活動を行うことによって生活上の課題を解決していきます。すなわち「単元」として学習が構成されています。

〈遊びの指導の場合〉「紙遊び」（全 1 0 時間）

- | | | | |
|-------------------|------|---------------|------|
| (1) 新聞紙で遊ぼう | 2 時間 | (2) 新聞紙で森を作ろう | 2 時間 |
| (3) 新聞紙で作った動物と遊ぼう | 2 時間 | (4) 紙飛行機で遊ぼう | 2 時間 |
| (5) いろいろな紙で遊ぼう | 2 時間 | | |

この遊びの指導では、遊びそのものを、その都度素材を変えて、各時間ごとに活動していきます。つまり、実践部分の連続であり、学習活動の最低のまとまりとしての「題材」として学習が構成されています。このように、「単元名」としているか、「題材名」としているかの違いは、指導者が学習内容をどのように考えているかという点において、読み手側がおおよその予想を立てられる重要なポイントとなります。各教科等の特性も踏まえて、今一度整理しておきましょう。

ぜひ、読んでみてください～特別支援教育研究 5 月号～

毎月様々な特集が組まれている月刊「特別支援教育研究」。今回は「これからの各教科等を合わせた指導」が特集テーマです。奇しくも巻頭には、昨年度、本校の授業を見ていただき「白兔の授業はとても良かったよ」という評価をいただいた岩手大の名古屋先生、広島大の竹林地先生のお二人の先生の寄稿が並んでいます。職員図書としても購入していただいていますので是非御一読ください。